

令和3年度 第1回うるま市地域公共交通会議 議事録

日時：令和3年7月19日（月）14：00～

場所：うるま市役所 東棟3階 大講堂

開会

1. 会長挨拶

【会長】	挨拶	本日は出席ありがとうございます。また、委員を引き受けて頂きありがとうございます。コロナ禍において交通事業者の皆様にご参加を頂いており、市としてもできる限り支援をさせて頂いているところです。目下ワクチン接種を前倒しで進めたいと考えております。さて、本市では地域拠点間を結ぶ交通ネットワーク、物流円滑化等交通負担軽減のため、交通基本計画を策定し、総合交通戦略を令和2年3月に策定しました。今回、公共施設間連絡バスや新たな交通システムの実証を考えています。戦略の中で、公共施設間連絡バスをうるマルシェまで延伸してほしいという声や、デマンド交通の空白地への運行など、市民の公共交通への関心は高まっています。市民、行政、事業者協働のまちづくりのためにも、闊達なご意見をお願いいたします。
------	----	---

2. 委員出席の確認・会議の成立・開会の宣言

【会長】	出席の確認	続いて、次第2. 委員出席の確認について、事務局より報告をお願いします。
【事務局】	報告	本日の委員の出席状況を報告いたします。 委員会委員25名中名、出席者は22名です。 神谷委員、喜屋武委員、については書面による意見提出がございます。 県交通政策課金城委員については、所用につき池原主査が代理出席しております。
【会長】	会議の成立	本日は、委員25名中、書面をもって意見提出を含む22名が出席となり過半数以上となりますので、うるま市地域公共交通会議設置要綱規則第6条第1項の規定により、会議が成立します。
	署名委員指名	会議録署名委員の指名についてですが、会議録署名委員は輪番制でお願いしたいと思います。 今回の会議録署名委員は「慶田委員」と「津波古委員」を指名しますが、宜しいでしょうか。 《両委員了承》 後日、事務局がまとめた会議録の確認と署名をお願いします。

3. 議事「実証運行計画（案）について」

【会長】	進行	議事「実証運行計画（案）」について事務局より説明を受けた後、ご意見等ございましたら、伺いたいと思います。事務局より説明をお願いします。
【事務局】	説明	《 議事説明 》
【会長】	進行	ただいまの事務局の説明について、ご意見等はございませんでしょうか。
【事務局】	質疑 応答	都合により会場には出席いたっておりませんが、書面による意見提出があった2名の委員のご意見について報告いたします。 《 意見報告・回答 》 【委員】 「実験自体には賛成です。ただし、両実験共に、『どのような人(ex.高校生・高齢者)の、どのような目的(通学・買い物や通院)に対する移動を支援するのか』という仮説を持ち、それが実験で検証可能なようにしておいてください。さらに連絡バス・デマンド交通・既存路線バスとの乗り継ぎ実績やその可能性についても可能な範囲で検証しておいてください。今後の結節点の議論において有効な情報となると思います。」 【事務局】 委員のご意見のとおり、単に実証を行うのではなく、実証Aについては将来の有償、コミュバス化を見据えた実験とするため、当該実証実験により市民の目的ニーズをしっかりと整理したいと考えております。 実証Bについては、デマンド交通という性質上、タクシー事業者との棲み分けを図ることが必要不可欠となりますので、今後も事業者協議を重ね、利用ターゲットや目的等を絞った実証実験を実施し、こちらについても実証結果をしっかりと整理いたします。 本市が目指す公共交通は、既存の公共交通の維持確保を念頭に、各交通システム(路線バスやタクシー)への結節、及び既存の公共交通の補完役としての立ち位置を意識しながら実証を進めて参りたいと考えております。 【委員】 「意見無し」 【委員】 資料2 P2について、路線バスの説明がありますが、タクシーについては利用傾向が細かく書いてあります。会議の冒頭で会長が言っていましたが、バスも厳しい状況です。バスも利用傾向や問題点を整理してもらえるとありがたいと思います。 また、P8、9の図の凡例に那覇バスの記載がありますが、P2には那覇バスの表記がないため統一した方が良くないでしょうか。 【事務局】 各事業者との協議を詰めている段階です。今後バス事業者と協議を進め、追記します。P9は名護方面の高速バスが表示されているため運行事業者として那覇バスが入っている。P8については、凡例から那覇バスを削除します。

【委員】	タクシー事業者と細かく調整してもらいたいと思っています。ただ、本実証運行のこれまでの経緯についてあえてお尋ねします。コロナ禍において、市の方で交通戦略を進められており、このスケジュール感と捉えていますが、タクシー事業はコロナ禍においてバス事業同様に非常に厳しい状況です。このような状況であえて実証を行う意義をお尋ねします。 2点目、資料2 P1の将来像に「過度に自家用車に依存することなく…」とあります。今回の実証実験ではAとBの案がありますが、既存の公共交通をより工夫して対応することで、実証実験と同じようなことが検討出来なかったのかと思います。地域の公共交通として以前よりタクシー事業を営んでいますが、コロナ禍や乗務員不足の中で、何とか事業を継続しているところです。空白地を上手くタクシーで埋めていくことで貢献できることがないか、今後も可能性はないのか、例えばタクシーチケットを配布するという案もあると感じたところです。タクシー事業者も必死に頑張っていますが、どうしても今回の実証実験と競合する部分が出てくると感じています。もっとタクシー車両を活用してもらい、移動に役立ちたいという思いがあります。
【会長】	タクシー事業はコロナ禍において厳しい状況と認識しているところです。検討プロセスや意見含めて事務局からお願いします。
【事務局】	市で交通基本計画や交通戦略を策定し、市民ニーズに応えるために本実証についても検討してきました。実証A（公共施設間連絡バス）については、短期的に実施する事業として進めているところです。今回、タイミングとしてコロナ禍と重なっている部分は非常に憂慮しています。しかし、市民の交通手段の利便性向上は市の責務だと感じています。今回、新たに交通システムを入れるという提案をしていますが、交通事業者の厳しい状況を踏まえて、利便性がいいもの、というよりはタクシーやバスとすみ分けを図って、少し不便なものからでも少しずつ検討を進めていく必要があると感じています。 計画では、バス停から300m以上離れた地域を公共交通空白地と整理していますが、タクシー事業者からそれはタクシーでカバーしている、というご意見を伺ったところです。タクシーは乗客の荷物の積込を手伝うなど、きめ細かいサービスを提供されており、「選ばれる手段」として引き続き運行頂きつつ、タクシーでは担えていないような、「新たな需要の創出」を今回の実証実験では考えています。 他地域では、デマンド交通により自家用車から公共交通へ戻っているという実績もあると伺っています。また、モビリティマネジメントも実施し、ハードとソフトの2本柱で取り組みたいと思っています。 地域内の移動はタクシー事業者で担っていただきたい、また地域間の移動は路線バス事業者で担ってもらいたいという思いです。今回の実証実験は、既存公共交通の補完として考えています。 タクシーチケットについては、持続可能な部分を考慮すると、継続的に検討しつつも、まずはデマンド交通などの実証で、公共交通の利用者全体を底上げし

	たいという考えです。
【委員】	資料2 P7について、実証による外出促進、新たな需要の掘り起こしとありますが、このご時世で外出促進は良いのでしょうか。また、需要掘り起こしとは誰の需要なのでしょうか。 現在タクシー事業者が倒産へのカウントダウンが始まっている様な状況です。本当に今の時期なのか疑問です。今回、県内のデマンド交通の調査研究はしているのですか。同業他社に聞くと、那覇はうまくいっていない、中城はうまくいっていると聞いています。事業実施には、経費がかかります。バス停を作るのも、コンサルタントへの委託費もお金がかかるものです。まずは、ぜひ県内事例を勉強してほしいと思います。
【事務局】	実証実験は10月～11月頃からの開始を考えています。コロナの状況が読めない状況ですが、コロナ前から計画的に進めているものであり、この段階で立ち止まるということはありません。デマンド交通の事例は、本土の事例でも交通事業者単独で採算をとることは難しいものです。市が事業を進めるに当たっては事業者へ委託をし、運行事業者が赤字ということにはならない様に検討したいと考えています。
【委員】	タクシー会社と会合を重ねているものの、全く前に進んでいない気がします。うま市内の移動実態、例えばどの地域からどの地域へ何名いつているという数字があれば理解できるとお伝えしていますが、一向に出てきません。データが無いと、どれくらいの方が利用されるのかが分かりません。データがあれば、違ったやり方ができると思いますが、細かいところまで調べてもらわないと前に進みません。
【事務局】	また、前に進んでいないということで、今後回を重ねて案を積み上げていきたいと考えています。現段階では、委託業務を始めたばかりで、データが無いのはご指摘のとおりです。ぜひ今後ご協力を頂きながら、各事業者さんの移動の実態把握にご協力をお願いしたいと思います。その上で仮説を立てて実証で検証できると考えています。どの地域からどこまで乗る、というデータは、乗っている方の需要は分かりますが、現段階で乗っていない方の需要は分かりません。今回の実証で、ニーズがあるのか無いのか、データを収集する意味でも実証を行いたいと考えています。
【委員】	欠席委員の書面意見の内容に尽きる話ですが、使う人の話を教えてください。両実証実験ともに市民限定ということでしょうか。
【事務局】	基本的には市民の方をターゲットとしています。実証Bについては観光客も対象としています。

【委員】	実証 B の観光客についても会員登録が必要になりますか。
【事務局】	南城市の例では観光客は登録不要としているため、うるま市民以外は登録不要を検討しています。
【委員】	2 点確認があります。 最初に、資料 2 P5 に交通空白地 2 か所ということになっていますが、①の兼箇所方面はデマンドがフォローすると思いますが、ゆらてく周辺は定時定路線の具志川循環線でフォローできるのではないのでしょうか。 もう 1 点、実証 B の期間が 4 か月とされていますが、パターン①は 1 か月になっています。整合性が取れていません。方向性を示してください。
【事務局】	実証 A については、公共施設間連絡バスの現行ルート+バス停増設で考えていました。 実証 B デマンド交通は自由経路ミーティングポイント型ですが、当初は空白地域については自宅前まで車両をつける、いわゆるフルデマンドで考えていました。しかし、タクシーとの競合が見込まれるという懸念、すみ分けを考え現行の案となっています。 実証パターンについては運行主体が未確定であるため、交通事業者と協議を行ってまいります。車両台数により実証期間が変わるためこちらも精査して、次回交通会議で報告予定です。
【委員】	そもそもなぜコロナ禍今実証を行うのでしょうか。本当に市民のためを思っているのなら、もっと実証実験を長く行うべきです。また、不要不急の外出の自粛をうたっている中で、実証効果が測定できるのでしょうか。 結局、乗る方がいなかった、乗らなかった、ということで税金の無駄遣いとならないのでしょうか。
【事務局】	市では、総合交通戦略の実施に向けて、年次的な取り組みが必要であるという判断があります。コロナ禍において交通事業者が厳しい状況は十分理解しています。心苦しい面はありますが、実証実験の取組は計画的に取り組む必要があるということをご理解いただきたいと思います。 実証実験 120 日とありますが、実施が秋以降で、コロナ禍の収束は分からない中、車両台数について今後とも協議を重ねていければと考えています。コロナ禍ではありますが、年次計画と今の状況が重なっている中ではありますが、様々な実証を行っていき、ベストの選択に持っていきたいと考えています。
【委員】	デマンド交通は反対です。デマンド交通は高齢者には合いません。高齢者は、足が悪いからバス停まで歩いて行ってまで乗らない、家の前まで来るからタクシーは乗ると思っています。タクシーの事をもっと勉強してほしいと思います。何も分かっていないと思います。デマンド交通はあちこちの地域で失敗していると聞きます。行政の予算があれば成り立つと思います。

【会長】	今回の会議はキックオフミーティングであり、実証実験の承認が目的ではありません。まずは市の方で理解いただけるように努力したいと思っています。ただ、次回会議で承認が難しいならそれはそれで良いと思います。既存のタクシーやバスを利用しやすくする方法もあると思います。 まずはうるま市の公共交通事情をしっかりと議論する、というところで考えています。
【事務局】	デマンド交通が合わないという意見でしたが、現在タクシーに乗っている高齢者の方については、引き続き既存の公共交通事業者のサービス、タクシーで担ってほしいと思っています。 高齢者の中でも、後期高齢者ではなく、歩けるがあまり外出する機会がない、また家族の送迎を受けている方をターゲットにしたいと考えています。そのような方が、近くの公民館等に出てきて、デマンド交通を利用するという使用イメージを考えています。
【委員】	コロナ禍となり、約1年半過ぎています。「脱コロナ」を考えないといけないと思っています。バス事業は約3割の減収です。今年度はやや持ち直しています。人の移動をしないと交通事業者は持ちません。路線バスや貸切バスの感染症に対する安全マニュアルを作成して、安心して利用してもらう環境を作っています。今回の実証実験は、需要を掘り起こすという意味で、やる意味はある、賛成です。ぜひ人の動きを戻しましょう。
【会長】	うるま市では、ワクチン接種を年内までに、と舵を切っています。ワクチン数が制限されている中、年内を目指して努力している状況です。
【委員】	公共交通は、地域が自らデザインするものであると思っています。実証実験をやる前提で要望しますが、せっかくやるなら目標や指標を定めておくべきです。思ったよりうまくいった、いかないがあるため、事前に目標を立て、検証してください。 実証Aについては、できれば何が課題で何を直すか、もう1段階示してください。便別、曜日別の利用実績など、もっと分析をしてほしいと思います。現状が分かりません。 また、今後有償化を目指すということですが、なぜ今年有償実証をしないのかの理屈の整理が必要です。 デマンド交通の成功例というものは無く、模索しながらだと思っています。目標を決めること、できるだけ分かりやすい仕組み、周知する期間を取ることが大事だと思っています。実証期間が短く、市民の方が知らないままに終わると、ニーズ把握ができないまま終わることになります。出来るだけ分かりやすいものをお願いしたいと思っています。また、乗った方のアンケートは簡単ですが、なぜ乗らなかったか、を取れるようにお願いしたいと思っています。

【事務局】		社会福祉協議会やPTA等と協力をしながら、周知を図っていきます。 委員からのご指摘のとおり、周知期間については確保してまいります。また、乗らなかった方のアンケートについても参考になりました。 周知は、広報うるまを活用して早めに行っているところです。9月号にも予告の周知を出す予定です。 なぜ実証Aを今年有償でやらないか、というご指摘ですが、以前の合併を受けて公共施設間連絡バスを運行開始した経緯があるためです。合併で不便とならない様、運行しています。今後、合併によるという部分と受益者負担という部分を鑑みながら、市民と対話し、また市の予算的事項も含めて検討していきたいと思っています。
【事務局 (委託業者)】		うるま市の将来を見据えたバス路線の検討、再編を見据える必要があると考えています。実証Aは路線バスと競合している状況があります。バス路線の再編と併せて、適切なうるま市全体のバス路線網の検討が必要だと思っています。 経路に関しては、どの様なところに需要があるか見極めたいと思います。 実証Bについては、特に高齢の方が交通不便地域で移動に困っていると思っていましたが、タクシー事業者に聞くと、きめ細かいサービスを提供されておられ、高齢者は困っていない可能性もあると考えています。高齢者のどのような外出を支援するのか、という意見もあり、また高校生のタクシー利用が減っているというところもあります。学生をターゲットに乗合運行する、運賃の負担から乗合で利用するという部分もあるかと思っています。 誰のためにどういうサービスがいるか、考え方を転換する必要があると思っています。データを整理してまいります。
【委員】		参考までに、行政の年次計画はいつ決まるのでしょうか。
【会長】		次年度の事業計画は夏頃から決まります。予算編成は11月頃から、1月頃には次年度予算が市内部で決まります。つまり次年度に向けて、夏～秋頃には担当者レベルでは予定ができます。3月末に議決し、おおよそ今の時期頃から委託業務等を開始するイメージです。そのため今回の件も、具体的に業務の内容を皆様に示せているのはこの2~3週間くらいからです。 うるま市は、特に島しょ地域など高齢者が多い状況です。タクシーチケットを行政が配布する案等、本日頂戴した様々な意見を踏まえて、なるべく市民に活用される施策を考えていきます。次回会議で皆様に理解されるよう提案します。
【会長】	議事 進行	他にご質問等ないので、これで本日の議事は終了し、進行を事務局へお返しします。

4. 事務連絡

【事務局】	説明	本日頂いた意見を踏まえ、また、運行形態等未確定な箇所については各交通事業
-------	----	--------------------------------------

		者との協議を行い、各実証実験の運行計画についてブラッシュアップしたものを第2回交通会議でご報告します。 期間が無い中ではありますが、運行形態等の決定及び実証実験計画の確定を目標に個別協議を考えておりますので、交通事業者の皆さまには引き続きご協力をよろしくお願いいたします。 次回の交通会議までに事業者協議が調えば、実証実験計画の承認についての審議をいただきたいと考えています。 第2回交通会議は8月30日(月)を予定しています。 本日はありがとうございました。
--	--	---

5. 閉会

【事務局】		以上を持ちまして、本日の令和3年度第1回 うるま市地域公共交通会議を終了いたします。 長時間にわたり、活発なご意見、慎重なご審議ありがとうございました。
-------	--	--